

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携を通して、概ね成果指標を達成することができた。今後は、学力向上について小中連携教育を継続し、個に応じた指導の工夫に焦点を当て取り組んでいく。その際、タブレットパソコンの活用にも力を入れて学力向上をめざしていく。 ・心の教育、健康・体づくりに関しては育友会と協力し、基本的な生活習慣の確立をめざし、様々な教育活動に「ほめるからはじめる、はじまる」をテーマに自己肯定感、自己有用感を高め、夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとする生徒を育成していく。 ・学校・家庭・地域との連携については家庭・地域の協力のおかげで、成果指標を達成することができた。来年度はコミュニティ・スクールとしてさらに連携を進め学校への参画を促進していく。 			
2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓 「和気、立志、報恩」 ・学校教育目標 「育振を愛し、進んで学ぶ、たくましい子どもの育成」 			
3 本年度の重点目標	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実 ・出番・役割・承認のある温かい集団づくりの推進 ・夢や目標をもつ活動の推進 ・生徒会活動の充実 ・育振に学び、育振を愛し、育振に貢献する活動の推進 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深い学びを促す個に応じた指導の工夫 ・学習環境のUI/D化の推進 ・学びの充実のためのICT活用の推進 ・小中連携教育による9年間の学びをつなぐ教育の推進 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>安心・安全な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の居場所づくり・絆づくりの推進 ・生徒理解に基づくチームでの生徒指導の充実 ・さわやかな挨拶、黙勤清掃、感染症対策の推進 ・特別支援教育、教育相談の充実 </td> </tr> </table>	<p>豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実 ・出番・役割・承認のある温かい集団づくりの推進 ・夢や目標をもつ活動の推進 ・生徒会活動の充実 ・育振に学び、育振を愛し、育振に貢献する活動の推進 	<p>確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深い学びを促す個に応じた指導の工夫 ・学習環境のUI/D化の推進 ・学びの充実のためのICT活用の推進 ・小中連携教育による9年間の学びをつなぐ教育の推進 	<p>安心・安全な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の居場所づくり・絆づくりの推進 ・生徒理解に基づくチームでの生徒指導の充実 ・さわやかな挨拶、黙勤清掃、感染症対策の推進 ・特別支援教育、教育相談の充実
<p>豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実 ・出番・役割・承認のある温かい集団づくりの推進 ・夢や目標をもつ活動の推進 ・生徒会活動の充実 ・育振に学び、育振を愛し、育振に貢献する活動の推進 	<p>確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深い学びを促す個に応じた指導の工夫 ・学習環境のUI/D化の推進 ・学びの充実のためのICT活用の推進 ・小中連携教育による9年間の学びをつなぐ教育の推進 	<p>安心・安全な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の居場所づくり・絆づくりの推進 ・生徒理解に基づくチームでの生徒指導の充実 ・さわやかな挨拶、黙勤清掃、感染症対策の推進 ・特別支援教育、教育相談の充実 		

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価				
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	○「深い学びを促す、個に応じた学習指導の在り方」のテーマに基づいた提案授業の実施やアンケートなどの評価に基づいた授業改善の実施	○授業は分かりやすいに「思う」と回答する生徒の割合80%以上。「少し思う」と合わせて100%	・話し合いを通して、自分の考えを整理し表現する力を育む指導法や、深い学びを促す学習課題の設定と効果的な評価に取り組む。	A	・深い学びを促す、個に応じた学習指導の在り方の研究として、深い学びを促す学習課題を設定し、話し合いを取り入れた授業実践を推進してきた。 ・学習環境改善のためタブレットを用いた学習活動を実施するために、タブレットを活用した授業スキルの研修会を実施してきた。	A	・授業は分かりやすいに「思う」と回答する生徒の割合が66.7%、「少し思う」と合わせて、87.5%だった。 ・効果的な自学ノートの活用の取り組みにおいて、毎日、生徒に自学ノートに取り組ませ、良い取り組みのものを掲示し、どのあたりがよかったのかを教師がコメントを残すことで、計画を立てて学習できるように工夫してきた。	A	・少人数を生かした授業づくりが十分にできていると思う。 ・個別の指導が行き届いていると感じた。 ・生徒同士の教え合う姿がよかった。	森
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のことについてよく考えている」について肯定的に回答した生徒80%以上	・人権集会や人権作文への全校での取組。 ・道徳に関するアンケートの実施。 ・ふれあい道徳における、保護者参加型の授業の実施。	A	・12月の人権週間に合わせて、人権作文動画の視聴と人権標語コンクールを実施した。また、人権集会では、人権作文の朗読と全学年でのワークショップを実施し、自他を大切にすることを意識させるための授業実践を推進してきた。 ・6月の授業参観に合わせて、参加型のふれあい道徳を実施した。	A	・道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のことについてよく考えていますか」に「そう思う」と回答した生徒の割合が99.9%であった。 ・本年度は感染症により夏休みの研修が実施できなかったため、来年度は全職員が研修を積める研修を実施する。	A	・道徳の授業を公開し、担任以外も授業をするなど生徒の幅広い視野を育む取組がなされている。 ・生徒の表情を見ると、どの生徒も心豊かに成長していることがうかがえる。	古川久
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校内に悩みを話せる先生がいる」について肯定的に回答した生徒80%以上	・教育相談の充実を図るとともに、生徒指導部会・協議会で情報を共有し、素早く、組織的に対応できる体制づくりに努める。	A	・成果指標は92.6%となった。普段から教育相談や生活アンケートを実施し、悩みを話しやすい雰囲気づくりに努めた。また、いじめを発見したら早期にいじめ対策防止委員会を開き、対応できた。	A	・学校内に悩みを話せる先生がいると回答した生徒が93.4%、8月にいじめの対応について、校内研修を行い、対応を確認することができた。 ・教育相談や毎月生徒への生活アンケートを実施し、悩みがある生徒への対応ができた。	A	・いじめ事案への速い対応がなされていて安心である。 ・一つ一つの事案に対し真摯に向き合い、早期解決にあたっていると感じた。	夏秋
	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれてると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・全ての教育活動を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・キャリア教育の充実。 ・立志式に向けた指導の充実と卒業生による講演会の実施。	A	・教育相談や毎月1回、生活アンケート等を実施し、悩みがある生徒の自己肯定を高めた。 ・成果指標はクリアしているが、更に学級活動や総合的な学習の時間などを活用しキャリア教育の充実を測ってきたい。	A	・学校内にあなたの頑張っていることを認めてくれる先生がいると回答した生徒が100%。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒91.7%。 ・立志式では前向きに自己の将来を設計しようとする力を育むことができた。 ・卒業生による講演会は生徒は深い感動を受けていた。	A	・キャリア教育については、コミュニティスクールでの会議や人材リストを活用し、地域交流と絡めて活動を広げられるのではないかと。 ・立志式で生徒の発表の様子を見て頼もしく思った。 ・学校生活の中で目標を掲げて、それを自信をもって表明する力をつけてもらっている。	夏秋
●健康・体づくり	○豊かな心を育むために、地域の様々な団体と連携した自然体験活動やボランティア活動。	○「各種体験活動に意欲的に取り組んでいる」について肯定的に回答した生徒80%以上	・各種体験活動では、生徒に活動の目的を確認させ、見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	A	・5月に環境美化のためのボランティア登山を行った。 ・8月に地域の老人福祉施設での交流会や清掃活動を行った。 ・3年生が「地域貢献プロジェクト」に取り組み、保育園の清掃活動や、地域の祭りのイベントの企画・運営に携わるなど積極的にボランティア活動に参加した。	A	・「各種体験活動意欲的に取り組んでいる」と、「そう思う」と回答した生徒が70.8%、「ややそう思う」と回答した生徒が29.2%と、肯定的な回答が100%であった。 ・全校生徒によるボランティア活動に加え、3年生が「地域貢献プロジェクト」に取り組みなど、さらに生徒が自主的に活動することができた。	A	・他の学校にはない活動が多く、それがボランティアになっている点が素晴らしい。 ・地域交流の内容を生徒たちが立体的に考え、体験で培ったものを学校生活や今後の人生に生かそうとする姿が見られた。	西川
	◎「望ましい生活習慣の形成」	●「早寝、早起き、朝ごはん」ができた生徒80%以上 ○スマホ等を21時になったら保護者に預ける生徒90%以上	・「早寝、早起き、朝ごはん」を推進するために育友会と連携し、地区懇談会等で啓発活動を行うとともにアンケート調査を行い検証する。 ・スマホ等所持率調査を実施し、実態把握による育友会との連携を図る。	B	・「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨するために、育友会や地区懇談会での呼びかけ、定期的なチェックを行った。そのことで、「早寝、早起き、朝ごはん」ができていると答えた生徒は80%を超えた。 ・スマホの所持率については、52%で、21時になったら保護者に預けているについては43%と目標値よりも大幅に低い結果となった。改めて、生徒、保護者へ様々な場面での呼びかけをし、改善していく必要がある。	B	・「早寝、早起き、朝ごはん」ができていると答えた生徒は85%を超えたが、保護者は62%にとどまり、隔たりがあった。今後も家庭と連携し、生活習慣の改善に取り組む必要がある。 ・スマホを21時になったら保護者に預けているについては、生徒・保護者とも50%以上が肯定的な意見であった。 ・今後も学級懇談会や育友会でも呼びかけを継続していくとともに、保護者や生徒向けの講演会等の啓発活動を重点的に実施したい。	B	・学校が生徒のスマホの利用を経年で調査し、指導されている点が良い。 ・現在はスマホの取り扱いが大変であると思う。家庭や地域でも気を付けていきたい。 ・生徒のスマホの利用については、学校だけの改善は難しいと思う。ICT関連の団体と協力し、適切な利用に係る周知を行ってはどうか。	久野・夏秋
	○児童生徒が運動に積極的に取り組み、健康・体力についての意識が向上する教育活動	○体育授業以外で運動を行っている生徒80%以上	・積極的な運動を推進するために、保健体育科で健康や体力向上の意識を高める活動を行うとともにアンケート調査を行い検証する。	A	・体育の授業以外で運動をしている生徒は96%おり、目標値を達した。部活動に入っていない生徒の運動の確保ができるように、運動の必要性等を授業の中で伝えていく必要がある。	A	・体育の授業以外で運動をしている生徒は96%おり、目標値を達した。 ・体力テストの結果から自分の足りない体力要素を知り、自分にあったトレーニングなどを家でやる意識が広がった。	A	・運動会では、自ら考えて行動できる姿が見られ、積極的に運動に取り組んでいることが分かった。 ・部活動に入っていない生徒が増えているなかで、十分に運動ができていると思う。	田辺
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○部活動時間の順守と部活動指導負担の平準化	○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○平日及び週休日における部活道時間の設定し、管理職へ報告する。	・専用PCへの入力により在勤時間の自己管理を行う。 ・出勤時にその日の施設時刻を確認し、退勤予定時刻をボードに示す。	B	・在勤時間の自己管理については、服務管理システムの導入により意識の向上が見られるようになった。退勤時間については、管理職による声掛けを随時行った。	A	・服務管理システムによる退勤の自己管理が全体的に向上してきている。 ・超勤の減少や年休取得率の増加など良い傾向が見られるようになった。	A	・先生方の勤務については、さらに工夫して在勤時間が縮小するようにしてほしい。特に管理職。	教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上した回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施。 ・特別支援教育部会での情報の共有。 ・個別の教育支援計画に沿った指導・支援。	A	・特別支援教育に関する研修会を実施し、特別支援教育部会での共有ができた。また、特別支援教育に関する専門性が向上したと答えた教員は80%を超えた。	A	・顧問同士が話し合い、効果的な部活動指導ができていた。 ・週休日を部活動休みにする顧問も増え、練習時間も減少傾向にある。	A	・先生方の指導に感謝している。部活動が子供たちの成長の場となっている。	田辺
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価				
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
○学校・家庭・地域との連携	○学校運営協議会を中核とした小学校・家庭・地域と連携・協力した教育の推進	○学校行事等で地域の方々への参画を促進する。 ○「育振小との交流授業と児童生徒の交流活動」それぞれ年間5回以上	・学校運営協議会を通して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させる。 ・総合的な学習の時間等を生かした地域を誘われる学校づくりで地域の方々の参画を推進する。	A	・地域人材の活用を促進するため人材リストを作成し、地域人材の掘り起こしを推進している。 ・育振小との交流授業を4回(2学期まで)行うことができた。	A	・継続して人材リストの作成を進め、地域だけではなく、神埼市を含め登録人数が増えた。 ・立志式や短歌の会には、保護者だけではなく地域の人が訪れ、交流を深めた。	A	・人材リストの作成などは、学校運営協議会の力を借りて、さらに若い世代を取り組む工夫を。 ・学校だけでなく、学校の様子を町内の人たちに知らせてもらえた。	教頭
○安心・安全な学校づくり	○生徒の居場所づくり・絆づくりの推進 ○「さわやかな挨拶」、「黙勤清掃」、「感染対策」の推進	○「学校生活を楽しく過ごしている」生徒80%以上	・生徒会活動の充実 ・いじめ防止に対する取組の充実	A	・あいさつ運動の定期的な実施により、あいさつの習慣化ができた。また、清掃の週間計画表を生徒会で作成し、清掃活動を強化している。 ・全校でのレクリエーションや授業中のペアワークなどにより、生徒間の交流活動を強化している。	A	・「学校生活を楽しく過ごしていますか」の問いに対して、「そう思う」79.2%、「ややそう思う」16.7%と肯定的な回答をした生徒が95.9%であった。 ・生徒会による交流活動や授業での話し合い活動を通して、生徒同士がコミュニケーションをとる機会をより多く設けることができた。	A	・生徒一人一人の活躍の場づくりになっていると思う。 ・挨拶や生徒の人当たりの良い対応は素晴らしい。	西
●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望	<p>学力の向上では、個に応じた指導やタブレットを利用した基礎学力の定着を図った。その結果、3年生は全員志望学校に進学することができた。1、2年生については、基礎学力の定着が不十分な生徒が1割程度みられるため、引き続き生徒の理解度に応じた指導法やタブレットを利用した学習を推進する。</p> <p>健康・体づくりでは、スマホの所持率が高くなるにつれ家庭での約束事が不十分な生徒が多いため、SNS関係の生徒指導が増加傾向にある。そのため、家庭・地域を巻き込んだ情報モラル教育を促進していく。</p> <p>学校・家庭・地域との連携については、コミュニティスクールを立ち上げたことで地域との連携が深まった。人材バンクを活用することにより、学校が地域のプラットフォームとして、地域と学校との相互交流を促進していく。</p> <p>学力の向上では、個に応じた指導やタブレットを利用した基礎学力の定着を図った。その結果、3年生は全員志望学校に進学することができた。1、2年生については、基礎学力の定着が不十分な生徒が1割程度みられるため、引き続き生徒の理解度に応じた指導法やタブレットを利用した学習を推進する。</p> <p>健康・体づくりでは、スマホの所持率が高くなるにつれ家庭での約束事が不十分な生徒が多いため、SNSの不適切な使用による生徒指導が増加傾向にある。そのため、家庭・地域を巻き込んだ情報モラル教育を一層促進していく必要がある。</p> <p>学校・家庭・地域との連携については、コミュニティスクールを立ち上げたことで地域との連携が深まった。人材バンクを活用することにより、学校が地域のプラットフォームとして、地域と学校との相互交流を促進していく。</p>									